

国語

令和三年度

本検査

学力検査

国語

問題用紙

(注意事項)

- 一 放送で指示があるまでは、開いてはいけません。
- 二 答えは、全て解答用紙に書きなさい。
- 三 検査問題は、大問七題で、1ページから13ページまで印刷されています。検査開始後に、印刷のはっきりしないところや、ページが抜けているところがあれば、手を挙げなさい。
- 四 解答用紙だけ提出し、問題用紙は持ち帰りなさい。

解答上の注意

解答する際に字数制限がある場合には、句読点や「」などの符号も字数に数えること。

聞き取り検査受検上の注意

- (1) 最初に聞き取り検査を行います。
- (2) 聞き取り検査は放送で行います。問いも放送します。放送は全て一回だけです。
- (3) 放送終了までは、3ページ以降を開いてはいけません。
- (4) 放送中に、1ページと2ページにメモをとってもかまいません。

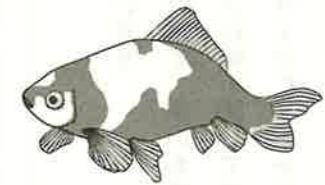
※注意 各ページの全ての問題について、解答する際に
 字数制限がある場合には、句読点や「」などの
 符号も字数に数えること。

これから、中学生の牧野さんが、町の図書館を訪れてレファレンスを
 利用している場面と、それに関連した問いを四問放送します。レファレ
 ンスとは、専門の職員が図書館の利用者に対し、資料の探し方など、調
 べものの支援をすることです。この場面で牧野さんは、調べ学習に必要
 な資料を探すために、職員の花岡さんと話をしています。1ページの
 「資料1」と「資料2」を見ながら放送を聞き、それぞれの問いに答えな
 い。

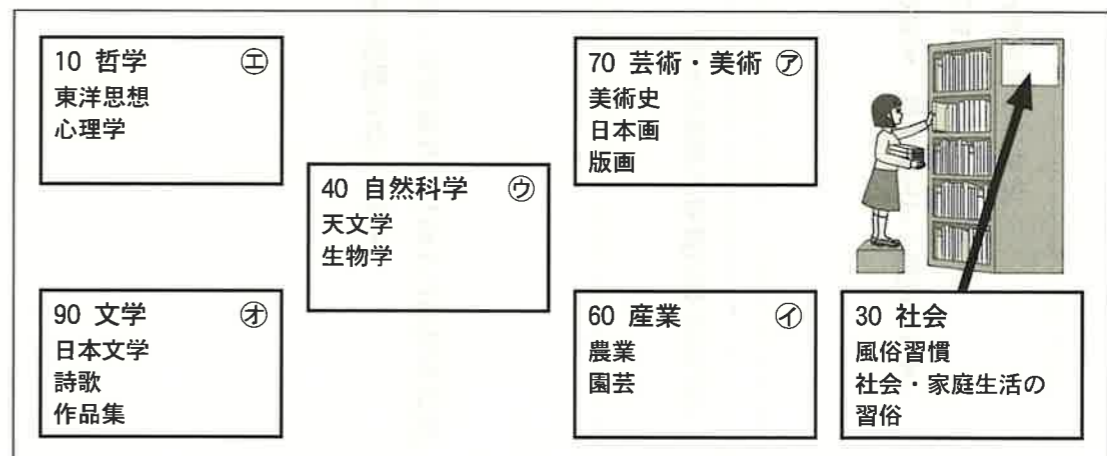
(放送が流れます。)

キンギョ【金魚】goldfish フナを原種として人為的につくられた観賞用の淡水魚。
 飼育が容易であるため、世界中で親しまれている。原産地は中国。

- 〔品種〕
- 〔習性〕
- 〔歴史〕
- 〔養殖〕
- 〔金魚に関する言葉〕



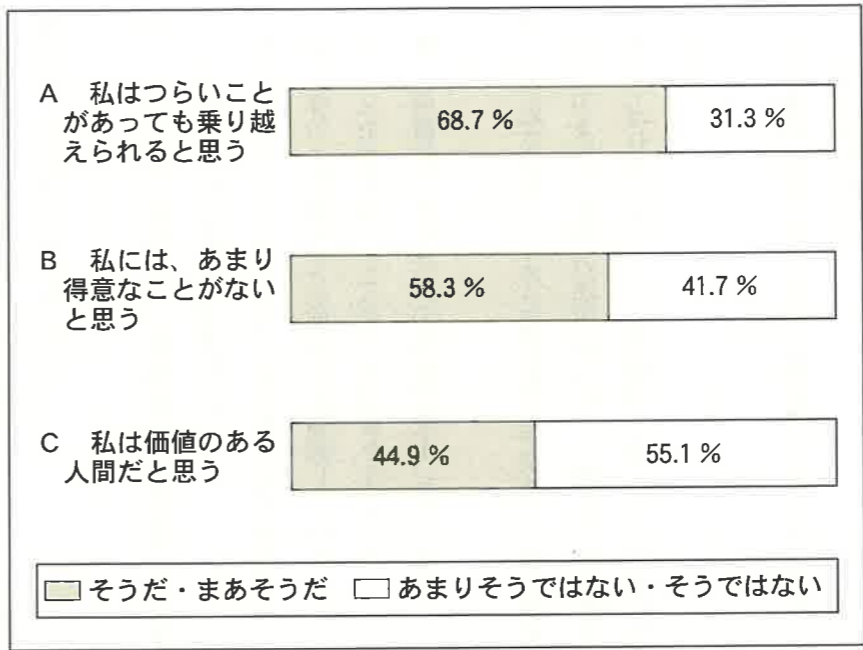
〔資料1〕 百科事典のページの
 一部
 〔資料2〕 牧野さんが訪れた図書館の
 本棚に付いている表示板



七 次の【資料】は、日本の高校生に「自己評価」について質問した結果をグラフに表したものです。この【資料】について、あとの〈条件〉にしたがい、〈注意事項〉を守って、あなたの考えを書きなさい。

【資料】 日本の高校生の「自己評価」(平成二十九年実施)

「自分自身についての評価項目とその回答」



(国立青少年教育振興機構「高校生の心と体の健康に関する意識調査報告書—日本・米国・中国・韓国の比較—(平成30年3月)」より作成)

〈条件〉

- ① 二段落構成とし、十行以内で書くこと。
- ② 前段では、A～Cの項目のうちからいずれか一つを選び、グラフが示す結果に対するあなたの考えを、そのように考える理由とともに書くこと。
- ③ 後段では、前段で選んだ項目(A～C)について、「自己評価」を高めるために、あなたが取り組みたいこと(または、現在取り組んでいること)を具体的にあげながら、なぜその取り組みが「自己評価」を高めることになると考えるのか、その理由もあわせて書くこと。

〈注意事項〉

- ① 氏名や題名は書かないこと。
- ② 原稿用紙の適切な使い方にしたがって書くこと。
ただし、「—や—」などの記号を用いた訂正はしないこと。
- ③ 【資料】に記された項目を示すとき、A～Cのアルファベットを用いてもよい。

(1) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 対話を通して考えが整理され、調べる視点が明確になった。
- イ 百科事典の活用によって情報が得られ、資料を収集できた。
- ウ 具体的な資料の提案を受けて、適切なテーマを選定できた。
- エ 主体的に質問を重ね、複数の具体例の共通点を確認できた。

(2) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 牧野さんの話の中に事典とは関係のない話題が出てきたので、言葉の意味を確かめる質問をしている。
- イ 牧野さんが勘違いしていることを指摘したうえで、どうしたらよいかの解決策を示そうとしている。
- ウ 牧野さんの資料に関する理解不足を補いながら、何を調べたいのかをよく考えるように促している。
- エ 牧野さんの話からくみ取った内容を聞き返すことで、相手の意図を理解できているかを確認している。

(3) (問いを放送します。)

(4) (問いを放送します。)

〔選択肢〕

- ア 花岡さんは、牧野さんに、個人的な興味だけでなく社会現象に対しても広く関心を向けるよう促している。
 - イ 牧野さんは、集まった情報をどのように整理するか、調べ学習のまとめ方についての見通しを立てている。
 - ウ 花岡さんは、レファレンスを利用したことが牧野さんの疑問の解決につながっているかを確認している。
 - エ 牧野さんは、伝えたいことの説得力を増すために意見の根拠となる情報は十分であるかを検討している。
- 聞き取り検査終了後、3ページ以降も解答しなさい。

二 次の(1)～(4)の——の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

- (1) 弁当を携えて牧場へ出かける。
- (2) 美しい旋律が聞こえる。
- (3) 直ちに事態を掌握する。
- (4) 心の琴線に触れる話。

(2) 文章中に「しほりかねてぞ立ちたりける」とあるが、これについて次の(a)、(b)の問いに答えなさい。

- (a) この表現の特徴として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。
- ア 対句によって文にリズムが生まれている。
イ 係りの助詞がその前の語を強調している。
ウ 文末を体言にして文に余韻を与えている。
エ 倒置法のために文の語順が変化している。

(b) 「かねる」は、「見るに見かねて手伝う。」その意見には賛成しかねる。「のように動詞の連用形に付いて意味を加える語である。ここで「しほりかねる」という表現は、誰の、どのような心情を表しているか。

(i) 誰の心情であるかを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 常葉 イ 主の女 ウ 謀叛の人 エ 主の男

(ii) どのような心情を表しているかを、「雪と涙にぬれた袖を」に続けて、「……へららの……」という形を使って、十字以上、二十字以内で書きなさい。

三 次の(1)～(5)の——のカタカナの部分に漢字に直して、楷書で書きなさい。

- (1) 草原にムれをなす馬。
- (2) 大胆な作戦が功をソウする。
- (3) 重要なニンムを受け持つ。
- (4) 売上高が右肩上がりにスイイする。
- (5) ハ克蘭強記の人物に教えてもらう。

(3) 文章中の「主の女」は夫とは異なる対応をするが、その理由として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 戦に巻き込まれたくないので、罰せられない保証があれば助けてもよいと判断したから。
イ 謀叛人の妻と子が現れたことに驚き、素直に届け出ることによって罪をまぬかれたかったから。
ウ 頼る者のない常葉の心細さを思い、自分にできるせめてもの世話をしようと思ったから。
エ 常葉らの運命に同情はしたものの、支援を申し出れば世間から非難されると考えたから。

(4) 文章中の「高きもいやしきも」が指し示すものとして最も適当なもの、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 評判 イ 身分 ウ 行為 エ 品性

(5) 追い詰められて逃げ場を失った者をたとえて「窮鳥」と言うが、関連する言い回しの一つに、「窮鳥懐に入る時は、獵師も之を捕らさず。」がある。こう読めるように、次の「窮鳥入懐時、獵師不捕之。」に返り点をつけなさい。

窮鳥入懐時、獵師不捕之。

六 次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

平清盛らの勢力に敗れた源義朝には妻子がいたが、妻の常葉は、清盛が義朝の子どもらを抑えようとしていると知った。次は、常葉が三人の息子を連れて、風雪の中を追手から逃れている場面である。

ある小屋に立ち寄りて、「宿申さん」といへば、主の男出でて見て、(宿をお借りしたい。)

「ただ今夜ふけて、幼い人々引き具して迷はせたまふは、謀叛の人の妻(注1)
(今時、夜がふけてから)

子にてぞましますらん。叶ふまじ」とて、男内へ入りにけり。落つる涙

も降る雪も、左右のたもとに所せく、柴の編戸に顔をあて、しぼりかね(注2)
(左右のそばをくぐりしよりぬし)

てぞ立ちたりける。主の女出でて見ていひけるは、「我等かひがひしき(注3)
(頼りになるような)

身ならねば、謀叛の人に同意したりとて、とがめなどはよもあらじ。高(注4)
(味方したからといって責められることはまさかないだろう)

きもいやしきも女はひとつ身なり。入らせたまへ」とて、常葉を内へ入

れて、さまざまにもてなしければ、人心地にぞなりにける。

『平治物語』による。

四 次の文章【1】、【2】を読み、あとの(1)～(6)の問いに答えなさい。

【1】

わたしたち人間が生きるということとは、この地球上に命を与えられ、その命を維持していくということの意味している。生まれるということとは、命を与えられるということである。与えられるということとは、**a**である。わたしたちは自らの誕生を選択することはできないからである。

他方、わたしたちは命をつなぐために、たくさんのことを選択する。「選択する」ということは、「選択肢をもつ」ということ、さらに、「選択することができる」ということも意味している。複数の選択肢のなかから選択することができるということは、選択の自由をもつということである。選択の自由があればこそ、わたしたちは、複数の選択肢から**b**でどれか一つを選ぶことができる。選択の存在こそ人間が自由であることの根幹に位置しているのである。

ただ、選択が望みの結果をもたらすかどうかは、選択の時点で分かっているわけではない。わたしたちは選択を誤ることもある。この場合の「誤る」は、数学の解答を誤るという意味ではない。正しい答えを出せなかったということではない。わたしたちは「正しい選択」というが、これは、数学の答えのような「正しさ」ではない。選択には、「よりよい選択」と「より悪い選択」、「どちらともつかない選択」がある。よりよい選択とは、わたしたちの願望の実現をもたらす選択、いわば幸福な状況をもたらす選択であり、そうでない選択が誤った選択、不幸をもたらす選

(注1) 謀叛||国家や君主に背いて臣下が兵を挙げること。
(注2) たもと||和服の袖の下の、袋状になった部分。
(注3) 柴の編戸||雑木の小枝を編んで作った戸。

(1) 文章中に **A** とあるが、男の行動を説明したものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 道に迷い宿を見つげられずに頼ってきた母子を哀れに思い、内に招き入れた。
- イ 妻子といえども、逃亡は謀叛と同じく罪深いことだと教え諭して追い返した。
- ウ 夜中に親子連れで訪ねてくるとはただ者でないと察し、かくまうことにした。
- エ 深夜に幼い子を連れてさまざま女の身の上を怪しんで、泊めることを断った。

択が悪い選択である。

さらに、よい選択をしたと思っても、選択の状況が変化するなかで不運が生じることもある。

【2】

「飾りとしての教養」に対して、わたしは、現代の若者が身につけるべき教養は、枝葉や花としての教養ではないと思っている。それは、「人間の根」としての教養である。これは「命綱」に通じる思想である。

人間を一本の木にたとえるならば、その根っこにあたるのが教養である。一本の木が生長してゆくとき、その生長を支えるのが太い根である。根が丈夫でしっかりしていれば、木は大きく育つことができる。幹を太くし、枝を広げ、葉を茂らせ、花を咲かせ、実をつける。地上に伸びた木を地中で支えるのが根である。

木が生長しようとすると、ときには風が吹く。強風で枝が折れることもある。雷が落ちれば、幹までが割れてしまうかもしれない。日照りが続くときには、地中に深く伸びた根でなければ、水を吸い上げることができない。

木が倒れてしまわないのは、根を大地に深く、また広く伸ばしているからである。根がしっかり大地を踏みしめているからこそ、木は大きくなることができるし、嵐にも早魘にも耐えることができる。

「教養は人間の根である」というのは、順風のなかにあるとき、その教養は、その人の幹と枝を育て、花を咲かせ、また、実をつけさせる。そ

の人を美しく飾る。他方、人がさまざまな困難に遭遇するとき、その困難に打ち克つ力となつて、その人を守る。

教養ある人は、よりよい選択をすることによつて身を守ることができ、よりよい人生を実現することができる。よい選択をするためには、わたしたちは、まず目の前に現れてくる選択肢を選択肢として認識できなければならぬ。これができなければ、わたしたちは大切な選択肢を見逃してしまふ。選択肢を選択肢として認識できる能力、複数の選択肢のなかから、よりよい選択肢、さらには最善の選択肢を選択肢するための能力、言い換えれば、最善の選択を支えるのが教養である。

〔1〕、〔2〕とも、桑子敏雄『何のための「教養」か』による。

(注1) 生長||草木が生い育つこと。

(注2) 早魃||「干ばつ」に同じ。

(注3) 順風のなかにある||物事が予定どおりに進むことのとえ。

(3) 文章中に お互いの心臓の高鳴り とあるが、この時の二人の様子を説明したものとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 無愛想な言い方は羞恥心の裏返しだと互いに察知しながらも、再び関係がこじれることに対する不安を感じている。
- イ 断絶の期間があまりに長かつたために、互いの発言の意図をくみ取ることができない会話に緊張を強いられている。
- ウ 互いの言葉に小学生の頃と変わらない優しさを感じ、友情が失われてはいなかったことに対する歓喜に浸っている。
- エ 相手の反応を探りつつ、互いに歩み寄り始めたことを意識し、親密な関係に戻ることに對する期待が芽生えている。

(1) 〔1〕、〔2〕の文章中の①②③④の四つの語のうち、品詞が異なるものを一つ選び、その符号を書きなさい。

(2) 〔1〕の文章中の a、b に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア	a	—	受け身	—	b	—	自らの権力
イ	a	—	運命的	—	b	—	自らの技術
ウ	a	—	受け身	—	b	—	自らの意思
エ	a	—	運命的	—	b	—	自らの知性

(4) 文章中の 真新しい白い紙がばらばらとめくれ、辺り一面に彩子とダイアナの愛してやまなかつた匂いを花びらのようにまき散らしていた という表現についての説明として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

- ア 読書の喜びを忘れていたが、かつての友人と本について語り合ううちに、本への純粋な愛情がよみがえつたさまを象徴している。
- イ 大人になつて気が付いた相手の長所を新鮮な気持ちで受け止めることで、心に秘めていた友情があふれ出すさまを象徴している。
- ウ かつて本を仲立ちにして育んだ友情が、今また互いの心を満たし、友人としての日々を新たに歩み始めていくさまを象徴している。
- エ 二人の間に存在したわだかまりが消えうせて、本を愛する者同士として、相手を尊重する気持ちが生まれるさまを象徴している。

(5) この文章についてまとめた次の文章を完成させなさい。ただし、I に入る言葉は、自分の言葉で、「……」にもなつて……という形を使つて、二十字以上、二十五字以内で書くこと。また、II に入る言葉は、文章中から漢字二字で抜き出して書くこと。

同じ本を読んでも以前と違った楽しみ方ができるのは、読み手の I ことにより、新たな発見ができるようになるからだ。この点に着目すると、この文章において、読書の喜びと II は、一度限りではなく何度でも呼び起こされるものとして、重ね合わせて描かれているといえる。

(2) 次は、この文章を読んだあとに、松田さん、竹村さん、梅野さんが、^B本の話をするだけで、十年のプランクが埋まっていくのが、なんだか魔法みたいだった。ダイアナはわざと仕事用の口調を選んだについて話し合った内容の一部である。これを読み、あとの(a)～(c)の問いに答えなさい。

松田さん 二人は長年疎遠だったのに、本の話題によって十年の空白が埋まっていくなんてことがあるんですね。

竹村さん この後にもその様子をみごとに直喩で表した箇所がありますね。「^I」という一文に含まれています。

梅野さん 私は「魔法みたい」という表現にも注目しています。私なら「嬉しい」という心情を抱きます。ここは、どうして「魔法みたい」という表現になっているのでしょうか。

松田さん ダイアナの心の動きを追うと、「魔法みたい」と表現することによって、^{II}様子が伝わってくると思います。

竹村さん では、「魔法みたい」と感じるダイアナが「仕事用の口調」で話し出すことは、どのように考えればよいのでしょうか。

梅野さん 面白い視点ですね。「仕事」は現実的で、「魔法」と対極にある表現のような気がします。

竹村さん ただし、彩子は出版社への就職を志しています。だから、ダイアナは同じ本の世界で働く者として、本を通して^{III}を贈る立場になります。

松田さん なるほど。「魔法」と「仕事」は矛盾していないんですね。

(a) ^Iに入る言葉を、文章中から一文を抜き出して、はじめの三字を書きなさい。

(b) ^{II}に入る最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 彩子が過去の自分の発言を忘れずに覚えていてくれたことに感激し、本がもたらす影響力の強大さを感じている

イ 諦めていた彩子との関係が、本の話題を通じて、またたく間に修復されていくことを実感し、驚きを感じている

ウ 仲直りがしたいと思いついてきた彩子から話しかけられている事実の有頂天になり、夢ではないかと感じている

エ 彩子との関係を修復する努力を怠ってきた自分に気が付いて、素直に過去と向き合っていく重要性を感じている

(c) ^{III}に入る言葉を、文章中から十字で抜き出して書きなさい。

(3) 【1】の文章では、「選択」における^A誤る、^B正しい、^C数値学における「正しい」「誤る」とは異なるものとして述べている。「選択」における「正しい」「誤る」の説明として適当なものを、次のア～エのうちから二つ選び、その符号を書きなさい。

ア 「選択」における「正しい」と「誤る」は、人類の共通の真理である。

イ 「選択」における「正しい」と「誤る」の間には、境界線を明確に引けない。

ウ 「選択」における「正しい」は、人間の自由な精神のあらわれである。

エ 「選択」における「正しい」は、固定されたものではなく、流動的なものである。

オ 「選択」における「誤る」は、選択者の努力が足りないために生じる。

(4) 【2】の文章中に「人間の根」としての教養とあるが、この文章では「教養」のどのような面に注目しているか。その説明として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 教養が、様々な体験を通して、年月をかけて養われていくこと。

イ 教養が、多様な分野を結びつけて、豊かな知識をもたらすこと。

ウ 教養が、平常は目立たないが、いざという時に頼りになること。

エ 教養が、心が傷つき、生きる希望を失った時に必要となること。

(5) 【2】の文章中に「日照りが続くときには、地中に深く伸びた根でなければ、水を吸い上げることはできない」とあるが、このたとえが表す内容を、具体的に書きなさい。ただし、「人間は」に続けて、二十文字以上、四十文字以内の一文で書くこと。

(6) 【1】と【2】の文章から読み取れる、「選択」と「教養」の関係をまとめた次の説明文を完成させなさい。ただし、^Iは文章中から五文字で抜き出して書き、^{II}はあとのア～エのうちから最も適当なものを一つ選び、その符号を書くこと。

【1】において、「選択」とは、人間が^Iうえで必要な営みであると位置づけられている。ゆえに【1】にあるような「選択」が「最善」のものであるためには、【2】にあるような、^{II}が必要になる。これこそが「教養」である。

ア 他の道を取り得ることも考慮しながら、状況にふさわしい対応を、時と場合に応じて柔軟に選び取る力

イ 多くのことを学び知るほど幸福感が増し、よりよい人生を実現できる可能性が高まることを自覚する力

ウ 自分の願望を実現するために、目の前に現れてくる機会を見逃さず、効率のよい方法で実行していく力

エ 自分の身を危険にさらさないために、多くの情報を的確にさばき、正しい選択肢を確実に見つけ出す力

五 次の文章を読み、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

モンゴメリの名作『赤毛のアン』に登場する主人公アンの親友と同じ名を持つダイアナ。書店員である彼女は、敬愛する作家であり、父でもある「はっとりけいいち」のサイン会を手掛けた。父との再会の機会を作ってくれたのは、小学生の頃に本が大好きという共通点で意気投合した親友でありながら、中学進学を前に仲違いし、音信の途絶えていた彩子であった。彩子に促され、ダイアナはサイン会を終えて帰る父を駅まで見送った。

店に戻ると、彩子も神崎さんの姿もすでになかった。やっばり――。もう今の私達には、あれ以上話すことなんてないのだ。哀しみと失望が押し寄せてくる。けれど、サイン会の片付けに、レジ締め、明日の納品確認とやることは山積みだった。ダイアナは気を取り直すと、マフラーを外し、なくさない場所に置いておこうと休憩室へと向かう。その時だった。ビジネス本コーナーで、さつき見たばかりのリクルートスーツを発見したのは。

何か、言わなければ、と思った。こちらが戻ってくるまで待っていてくれたことがみつきたいくらい、嬉しかった。ダイアナの視線を感じたのか、スーツ姿の女の子はゆっくりとこちらに振り返った。

「夕方の書店って、小学校の図書館と同じ匂いがあるのね」
今まさに自分も感じていたことを、彩子がかみながら言う。

「あのね、ダイアナ……。本を探してもらえないかな？ 卒業まであと二カ月なんだけど、やっばり……。出版社を受けたいと思って今になっ

かし、しなやかな意志を感じさせる声でこう言った。

「ねえ、ダイアナ。あのさ、今日、仕事何時に終わるの？」

お互いの心臓の高鳴りが聞こえる気がした。彩子の桜色に染まった指の中で、真新しい白い紙がばらばらとめくれ、辺り一面に彩子とダイアナの愛してやまなかつた匂いを花びらのようにまき散らしていた。

(柚木麻子『本屋さんのダイアナ』による。)

(注1) 神崎さん＝ダイアナの父である「はっとりけいいち」の本を手掛けた編集者。

(注2) レジ締め＝店員が、店を閉める時に、一日の売り上げなどを確認する作業。

(注3) マフラー＝はっとり氏が帰りぎわ、寒さを心配してダイアナの首にかけてくれたもの。

(注4) リクルートスーツ＝大学生などが、会社の面接や入社式の際に着るスーツ。

(注5、6) 『アンの愛情』『アンの青春』いずれもカナダの小説家モンゴメリの作品で、主人公の少女時代を描いた『赤毛のアン』の続編。
十代後半から二十代前半の頃のアンを描く。

て本気出してるんだ。ええと、何か、息抜きていうか、気分が前向きになるような本、探してもらえないかな」
まかせて、とつぶやき、ダイアナは児童書のコーナーに彩子を誘う。迷うことなく『アンの愛情』を見つけ出し、差し出した。彩子は怪訝そうに首をひねる。

「『赤毛のアン』が面白いのは『アンの青春』までなんじゃなかったっけ。ダイアナ、あの頃そう言ってたよね。恋愛や結婚がメインになって面白くないって」

本の話をするだけで、十年のブランクが埋まっていくのが、なんだか魔法みたいだった。ダイアナはわざと仕事用の口調を選んだ。

「本当にいい少女小説は何度でも読み返せるんですよ、お客様。小さい頃でも大人になっても。何度だって違う楽しみ方ができるんですから」
優れた少女小説は大人になって読み返しても、やっばり面白いのだ。

はっとり先生が言ったことは正しい。あの頃は共感できなかった心情が手にとるようにつながり、気にも留めなかった脇役が俄然魅力を持って輝き出すこともある。新しい発見を得ることができると同時に、自らの成長に気づかされるのだ。幼い頃はぐくまれた友情もまた、葉を挟んだところを開けば本を閉じた時の記憶と空気が蘇るように、いくつになっても取り戻せるのではないだろうか。何度でも読み返せる。何度でもやり直せる。何度でも出会える。再会と出発に世界中で一番ふさわしい場所だから、ダイアナは本屋さんが大好きなのだ。いつか必ず、たくさんの祝福と希望をお客さんに与えられるようなお店を作りたい。

『アンの愛情』に夢中になっている様子の彩子は、こちらを見ずに、し

(1) 文章中に ^Aダイアナ、あの頃そう言ってたよね とあるが、この時の彩子の気持ちとして最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア ダイアナ自身がつまらないと評価した本を差し出す真意がつかめず、納得できないでいる。

イ 大人である自分に子ども向けの本を提案したので、ダイアナに対する不快感を覚えている。

ウ 出版社を受ける自分の目的には適していない本が選ばれたので、ダイアナに失望している。

エ 自分の気持ちを前向きにする本であるとは思えず、ダイアナを問いただそうと思っている。